

1 研究主題，研究内容，方法等について

(1) 研究主題

自己肯定感が高まる子供の育成 ～互いを認め合える集団作りを通して～

(2) 主題設定の理由

本園は昨年度、「自己肯定感が高まる子供の育成～互いを認め合える集団作りを通して～」を研究主題とし、研究を進めてきた。「自己肯定感の育ちのイメージ図」を作成し、改善を繰り返すことで、「めざす子供像」の具体的な姿を教職員で共通認識し、その実現のために互いに認め合える集団作りに取り組んだ。遊びの情報交換，保育カンファレンス・研究保育を通して，子供の姿の変容を見取り，幼児理解を深めるとともに，教師の援助と環境の構成の工夫を行うことで，子供自身が，自己決定しながら新たな挑戦を楽しんだり，うまくいかなくてもすぐに諦めず継続して取り組んだりする姿に変容し，自己肯定感の高まりが見られた。一方で，子供がより主体性を発揮して遊びを展開することができるような教師の援助や環境の構成の工夫，発達年齢に応じた振り返りの充実について課題が残った。

今年度は，昨年度の研究をさらに進め，ドキュメンテーションの手法を用いて研究を進めていく。幼稚園教育要領解説において，評価の妥当性や信頼性の確保について「日々の記録やエピソード，写真など幼児の評価の参考となる情報を活かしながら評価を行ったり，複数の教職員で，それぞれの判断の根拠となっている考え方を突き合わせながら同じ幼児のよさを捉えたりして，より多面的に幼児を捉える工夫をする」ことが大切であると記されている。ドキュメンテーションは，保育の可視化であり，写真や文章を用いて子供の遊びや学びを記録していくものである。これを教職員間で作成，活用していくことにより，多面的に保育を振り返り，教師の援助や環境の構成について検証したり，幼児理解を深めたり，子供の姿を捉え，興味や関心を探りながら次につながる環境の構成を行うなどしていくことができると考える。また，作成したドキュメンテーションを掲示や配信することにより，子供にとっては，友達の遊びを知り自分の活動に活かそうとしたり，自分の遊びの価値付けをすることが自信につながったりすることができ，保護者にとっては，遊びの中の学びを通して子供がどのよ

うなことを学んでいるのか知ることができると思う。

本園は今年度、幼稚園型の認定こども園に移行し、幼稚園利用の子供に加え、1歳以上の保育利用の子供も受け入れ、幅広い年代の子供が一緒に生活をしている。幼保連携型認定こども園教育・保育要領において、「満3歳以上の園児については、学級による集団活動とともに、満3歳未満の園児を含む異年齢の園児による活動を、園児の発達の状況にも配慮しつつ適切に組み合わせて設定するなど工夫をすること」と異年齢活動について記されている。体験活動の充実の中に、発達の状況を配慮した異年齢活動も取り入れ、社会性や自己肯定感を育むことができるように、環境の構成をしていく。また、子供の主体的な活動を促すような教師の援助や環境構成の在り方について、保育カンファレンスや研究保育を通して事例検討を行い検証し、探っていく。

(3) 研究目的

互いに認め合える集団作りを行う中で、体験活動の充実を図り、教師が幼児理解を深めたり、教師の援助、環境の構成の工夫を行ったりすることによる子供の自己肯定感の高まりを探る。

(4) 研究方法

①体験活動の充実（遊びのつながり）

- ・週日案に、子供の遊びの様子、教師の関わりや必要と予想される環境の構成などについて書き加え、記録を積み上げていく。

②ドキュメンテーションの作成及び活用を行う。

- ・遊びの情報交換を行い、ドキュメンテーションを作成する。子供の遊びの姿や様子を共有し、興味や関心、思いを見取り、成長のプロセスを把握していく。その中で保育を多面的に捉え、自己肯定感が高まる教師の援助や環境の構成の在り方について探る。
- ・子供の遊びや育ちを保護者と情報を共有する。
- ・クラスに掲示することにより、子供たちが自分自身の行動や頑張ったことを視覚的に確認できるようにする。

③保育カンファレンス・研究保育

- ・実践を基に事例検討を行い、分析、考察する。
- ・記録（エピソード・写真等映像記録）や研究保育での観察などから、多面的に保育を見つめ直し、子供の姿や育ちを捉え、幼児理解を深める。

④「自己肯定感の育ちのイメージ図」の見直し

- ・「自己肯定感の育ちのイメージ図」を活用しながら実践を行い，自己肯定感を高めるための教師の援助や環境の構成について探りながら図を更にブラッシュアップする。

（５）研究仮説

互いに認め合える集団作りを行う中で，ドキュメンテーションの手法を取り入れ，子供の遊びや学びを可視化することを通して保育を振り返り次の保育につなげたり，教師が子供一人一人に寄り添い，幼児が安心して自己発揮できるような環境を整えるなど環境の構成の工夫を行ったりすることで，子供の自己肯定感を高めることができるであろう。

2 研究構想図

研究主題

自己肯定感が高まる子供の育成 ～互いを認め合える集団作りを通して～

めざす子供像

- ① 自信をもって遊び込む子
- ② 自分の好きな遊びを通して、充実感を味わう子
- ③ 自分も友達も大切にする子

研究仮説

互いに認め合える集団作りを行う中で、ドキュメンテーションの手法を取り入れ、子供の遊びや学びを可視化することを通して保育を振り返り次の保育につなげたり、教師が子供一人一人に寄り添い、幼児が安心して自己発揮できるような環境を整えるなど環境の構成の工夫を行ったりすることで、子供の自己肯定感を高めることができるであろう。

研究の内容 ～互いに認め合う集団作り～

- 体験活動の充実を図る。～遊びのつながり～
- ドキュメンテーションの作成をする。～保育の可視化～
- 保育カンファレンス・研究保育を通して幼児理解を深めたり、自己肯定感を高めるための教師の援助や環境の構成の工夫を探ったりする。
- 「自己肯定感の育ちのイメージ図」の見直しを図る。

教師の援助

- ・受容的、応答的な関わりをする。
- 認める
- 受け止める
- 評価する
- 励ます

環境の構成の工夫

- ・互いのよさを認め合える環境
- ・発達段階に応じた環境
- ・子供の興味、関心に応じた教材の提示
- ・自ら選択できる場
- ・達成感、充実感につながる体験ができる環境
- ・異年齢交流の場

めざす子供像の具体的な姿

① 自信をもって遊び込む子

- ・好きな遊びがある。
- ・得意なことを活かして遊ぶ。
- ・継続し、遊びを発展させる。

②自分の好きな遊びを通して、充実感を味わう子

- ・自分の思いを表出する。
- ・失敗を恐れず挑戦する。
- ・他者から認められ、達成感を味わう。
- ・試したり工夫したりして遊ぶ。

③自分も友達も大切にする子

- ・自分のことが好きである。
- ・自分に自信をもつ。
- ・苦手なことがあってもよいと思える（ありのままの自分を受け入れる）。
- ・他者を認める。

3 研修日程

月 日	公開保育 園内研修等	具体的な取組の内容
4 月	園内研修	令和 7 年度研究推進計画について
5 月 9 日（木）	園内研修	遊びの情報交換・ドキュメンテーション作成（進級・入園当初）
7 月 9 日（水）	公開保育	研究保育（さくら組）
7 月 24 日（木）	園内研修	「自己肯定感」の育ちのイメージ図見直し 遊びの情報交換・ドキュメンテーション作成（Ⅱ期）
8 月 20 日（水）	園内研修	保育カンファレンス（ひよこ組・さくら組）
9 月 12 日（金）	公開保育	研究保育（ひかり組）
10 月 14 日（火）	園内研修	遊びの情報交換・ドキュメンテーション作成（Ⅲ期前半）
10 月 15 日（水）	園内研修	保育カンファレンス（ひかり組・そら組）
11 月 11 日（火）	公開保育	研究保育（そら組）
12 月 24 日（水）	園内研修	遊びの情報交換・ドキュメンテーション作成（Ⅲ期後半）
3 月 19 日（木）	園内研修	遊びの情報交換・ドキュメンテーション作成（Ⅳ期）